

今日の黙想のてびき

週日聖書日課 ヨハネによる福音書 19:38～42

2025年7月19日(土)

◆文脈と言葉

- アリマタヤのヨセフ：議員の中に信じる者がいたことが記されているのでその一人であったと考えられます(12:42)。他の福音書では最高法院の議員であったことが明示され、その決議や行動には賛成していなかった、正しい人として記されています(ルカ 23:50)。このヨハネの記事とは対照的とも思えますが、主イエスの死を目撃して、弟子であることを隠していた恐れを乗り越えたということなのでしょう
- ニコデモ：この人も議員で、かつて新しく生まれることについて主イエスと議論した人です(3:1-15)。その時は「そんなことがありえるだろうか」と納得しなかったこの人も、最高法院の裁判ではその手続に異議を唱え(7:50-51)、ここでは主イエスの葬りに現れます。

◆黙想のすじみち

(1)あらすじと説き明かし

- 自分が主イエスの弟子であることをユダヤ人たちを恐れて隠していた人と、主がお語りになった新しい命を理解しなかった人が主イエスの遺体を引き取り、埋葬したことは非常に印象的です。
二人それぞれにここまで何が起こったかはわかりませんが、弟子であることを公に言い表さない時期があったことも、信仰のことがらを理解しなかったことも、決定的なことではないことがわかります。
- ヨセフについては、議員であった弟子たちは、みな恐れのためにそのことを公にしなかったことが記されています。このことをこの福音書は、神ではなく人からの誉を選んだと非難します(12:42-43)。公に言い表さないことそのものは認められることではないのですが、そこから主イエスのもとに帰ってきた悔い改めが信仰として福音書に記されるのです。
- わたしたちは、主イエスが与えてくださる新しい、真理の命について、うまく人に伝えることができないことがあるかもしれません。理解しない人をみてがっかりすることもあるかもしれません。信仰者であることを恐れて、人には言えない時もあるかもしれません。けれども、そこで諦めたり、人に呆れたり、自分を責めたりする必要はありません。その時は納得せずに去ったとしても、一時公に言えなかったとしても、主イエスを認め(7:50-51)、主イエスご自身が立ち返らせてくださることにより頼むのが信仰だからです。